

# 令和6年度 中学生「親になる講座とふれあい体験」 実施報告書

知多市児童センター

## 1. 事業目的

本事業は、親になる前の中学生を対象に、県が作成した愛着形成のための教材「親と子のふれあい」DVDを活用して事前に学習講座を行い、その上で乳幼児親子と実際にふれあい、子育てに関する「期待」・「自覚」・「責任」の気持ちを育むことを目的としています。

なお、国は、児童が乳幼児とふれあう取組を児童館の事業と位置付けており、市としても本事業を『第2期知多市子ども・子育て支援事業計画』（計画期間：令和2年度～令和6年度）の施策に掲げ実施しているところです。また、『知多市子ども計画』（計画期間：令和7年度～令和11年度）においても本事業を主要事業に位置付けています。

## 2. 実施校・開催日等

実施校	開催日	対象	講座	ふれあい体験	疑似体験	親子人数
知多中学校	11/1(金)	講座：全6クラス ふれあい：1クラス	体育館 (全クラス)	サブアリーナ		15組 31人
八幡中学校	11/20(水)	講座：全5クラス ふれあい：各クラス8人 (計40人)	体育館 (全クラス)	サブアリーナ	体育館 ふれあい以外の生徒 *ふれあい配信*	13組 27人
東部中学校	11/22(金)	講座：全4クラス ふれあい：各クラスから選抜	体育館 (全クラス)	武道場	体育館 ふれあい以外の生徒 *ふれあい見学*	13組 27人
中部中学校	11/26(火)	1クラス	教室	武道場		15組 30人
旭南中学校	11/28(木)	講座：全4クラス ふれあい：1クラス	体育館 (全クラス)	武道場	体育館 (3クラス分)	14組 30人

## 3. 内容

- ①赤ちゃんへの興味関心、また『親になる』ことに対してどう考えるか等、事前と事後にアンケートを実施する。
- ②『親と子の愛着』のDVD（愛知県作成）、パワーポイントでの講座にて、“赤ちゃんの発達”“赤ちゃんとのかかわり方”“夫婦・家族が協力して子育てをすること”などを学ぶ。

### 【DVDを使った「親になる」講座】

DVDを視聴し、赤ちゃんの発達、子育てや親に関することを講座で学びました。



### ③赤ちゃんとのふれあい体験

- ・生徒と親子のペアをつくり、関わる乳幼児を決め、限られた時間内で親しみをもち、ふれあうことができるようにする。
- ・好きな遊びで距離を縮められるように自由遊びを設ける。
- ・手や身体に触れて遊ぶ手遊び、体を動かして楽しむ体操、みんなで大型絵本を見るなど、直接ふれあう機会を設ける。



### 【ふれあい体験】

赤ちゃんと身近にふれあい、保護者の方と話をしました。赤ちゃんの発達、子育てや親の思いなど聞いて赤ちゃんと実際にふれあうことで、親の思いや子育ての大変さ、喜び、子どものかわいらしさなど、気づくことができました。



### ④代表の生徒数人が感想や感謝の気持ちを伝える。

【ふれあい体験を終えて、参加した保護者や赤ちゃんにお礼や感想を伝えました】

「赤ちゃんは、とってもかわいかった。でも、お母さんは大変だと思いました。今日は、一緒に遊んで楽しかった。」



「普段こんな小さい子と関わることはないのですが、どうしたらよいのかわからなかったけれど、実際に関わってみたら、赤ちゃんが笑ってくれた。もっと一緒に遊びたいと思った。」

「自分も小さい頃は、こんな感じだったのかなと思いました。お母さんたちは、とても大変だと思ったので、自分を育ててくれた親に対して感謝の気持ちを感じました。」



(疑似体験・希望校のみ)

○新生児標準体重3kgの人形を使用

赤ちゃん人形を使って、新生児の重さを感じ、命を大切に扱わなければならないことを実感する。おむつ交換、おんぶひもを使ってのおんぶ、肌着の着脱などを体験する。

○妊婦ベスト（5kg）を使用

妊婦ベストを着用して、立つ、座るなど日常の動きをすることで、重さ、動きにくさなど体にかかる妊娠中の負担を体験する。



#### 4. 保護者から生徒へ（抜粋）

- ・子ども目線で遊んでくれて、とても嬉しかったです。ふたりとも夢に向かって頑張っただけね！子育て、大変だけど楽しいよ！
- ・優しく見守ってくれてありがとう。みなさんも沢山のひととふれあい、愛され大きくなったことを忘れないでください。大好きなひととの子どもができてパパママになった時、今のままの優しいみんなであってほしいね。
- ・皆さん、あやすのが上手で安心してお任せできました。皆さんみたいな子に育ってくれたら嬉しいです。皆さんもお母さんと仲良くしてね！
- ・すごく落ち着いて接してくれたのがとても良かったです。大きくなったら素敵なイクメンになってね。
- ・子どもとの遊び方がとても上手で、さすが中学生だと思いました。私も娘も楽しい時間でした。いろいろと質問してくれて、興味を持っていてくれるのを感じて嬉しかったです。
- ・身近に小さい子もいない中で戸惑うこともあったと思いますが、頑張っただけ遊んでくれているのが伝わって良かったです。子どももお兄さんたちになついでに名残惜しかったです。
- ・子育ては大変なことも多いけれど、その分子どもの成長が何より楽しみです。いつかこの体験を自分が親になった時に思い出し、両親が育ててくれたことに感謝を伝えてほしいと思います。
- ・中学生になると、こんなにもしっかりしているんだと、我が子の成長を楽しみにしながら毎日の子育てを頑張ろうと思います。

#### 5. まとめ

アンケート結果より、普段から赤ちゃんや小さい子どもとふれあう機会がある生徒は54%ですが、ふれあい体験後に「赤ちゃんや小さい子どもとふれあう機会を持ちたくなった」生徒は78%でした。また「赤ちゃんや小さい子どもへの関心」「子育てをしてみたいか」「結婚や子育てに対する具体的なイメージを持つ」の項目で体験後の肯定的な数値が上昇しました。大半の生徒は普段から小さい子どもとふれあう機会がなく、自分の結婚や子育てについてのイメージの持ちにくさがあったようですが、実際に小さい子どもとふれあったり、保護者と話したりして、子育ての喜びや大変さを感じ、自分が親になった時の役割や子育ての大切さを考えるきっかけとなっているように感じます。また講座での学びから、疑似体験でも赤ちゃん人形の首を支えて抱き上げるなど、慎重に扱おうとする姿から、命の大切さを感じていることが感じられました。

学校からは、できれば全クラスの生徒に実際に小さい子どもとふれあう体験をさせたいという希望がありましたが、時間が限られており、全生徒が一度に赤ちゃんや小さい子どもとふれあう事は難しく、①講座を全クラスの生徒を対象に実施（1校はふれあい体験をするクラスのみ）②ふれあい体験を1クラス分の生徒が実施し、その他の生徒は赤ちゃん人形を使って疑似体験を実施するという方法で行いました（1校はふれあい体験をするクラス以外の生徒は授業に戻る）。それぞれの学校と

の打合せで、ふれあい体験を補うためのアイデアの提示があり、赤ちゃん人形と妊婦ベストでの疑似体験の他に、ふれあい体験会場の様子を撮影したものをスライドにまとめて疑似体験をした生徒に見せる、ふれあい体験を見学するなど、様々な工夫をした上での実施となりました。

現在は中学校からの希望により行事や受験などで忙しい学年を避けて中学1年生を対象に実施していますが、中学校学習指導要領の『家庭分野 家族・家庭生活 幼児の生活と家族』の内容がふれあい体験の趣旨に繋がると思っております。一部の学校からも同じようなお話があり「中学3年生で実施できないだろうか」というご意見もいただきました。

今後も学校からのご意見をいただいて共に検討し、工夫や見直しを行いながらふれあい体験を実施していきたいと考えています。